

# 第 11 回定例教育委員会 会議録

開催月日 令和2年11月4日（水）

開催時間 午後 3 時 30 分から午後 4 時 12 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 齊木 邦彦  
教育長職務代理者 佐藤 喜美子  
委員 松坂 浩志、岡部 和子、小澤 幸子

出席職員 教 育 次 長 小林 厚  
教 育 監 嶋 崎 修  
教 育 監 井上 耕史  
理 事 降 旗 友宏  
次長（総務課長） 小田切三男  
高校改革・特別支援教育課 百瀬 友輝  
生涯学習課長 山岸 ゆり  
総務課総括課長補佐 土橋 信也  
総務課課長補佐 入倉 俊幸  
総務課副主幹 河野 奈美  
総務課副主幹 大瀬 信介

高校改革・特別支援教育課  
課長補佐 高野 泰仁  
生涯学習課  
総括課長補佐 望月 勝一

傍聴人 0 名

報道 3 名

## 会議要旨

### 〔 教育長開会宣言 〕

三塚委員から都合により会議を欠席する旨の届け出があった。

### 1 議 案

第 25 号 令和 3 年度山梨県公立高等学校等入学者募集定員について

〔説明〕 高校改革・特別支援教育課

佐藤委員 お願いします。  
今のお話の中の学科別の募集定員の探求科のところですが、探求科がある高校は、一高のほかにもどちらがあるんですか。

百瀬課長 一高だけです。

佐藤委員 だけですか。  
そこをかなり年々減らしているんですけども、高校に総合的な探求の時間というのが入ってきたようなところが影響して探求科という、その科を減らしていこうという、そういう何か見通しの中で減らしていらっしゃるのでしょうか。

百瀬課長 探求の時間とはまた別の意味の探求の学科でございまして、そういう授業、授業、その探求の授業に関わるものではございませんで、具体的には甲府一高のほうで昨年度欠員が出ている状況もございまして、また生徒数の甲府地域における減もございまして、そういったことを総合的に配慮し、各校とのバランスも考えての減でございまして。

佐藤委員 生徒さんが探求科に魅力を余り感じなくて、応募、志願する生徒が少なくなっているというのが理由なんですね。

百瀬 課長 実際、去年の入試ではそういう状況でございました。

佐藤 委員 分かりました。

松坂 委員 この提案理由というのはよく分かるんですけど、今後全体的に人が減っていくわけですよ。今のような募集定員の数において調整というのか、こういうふうな形を、今後の計画って人が減っていく中でどういうふうに考えているかという、何かそういった計画って何かあるんでしょうか。先日も都留高校に行った時に、都留高校のほうでもなかなか人が集まらないという話を、ちょっとそこでどういうふうに今後その高校の人を集めるための施策をどう考えるかという話が高校の内部でもあったんですけど、その人を各校に人気があるような形で集めさせるように方向付けしていくのか。例えば県として全体的に少なくなっていく定員の中で、どこのタイミングで高校の統廃合を考えるかとか、そういうふうな計画というのが、何か人がどンドン少なくなっていくのは皆さん理解していると思うんですけど、そして各高校でも集まらないのでという問題もこの間先日ちょっと都留高校に行った時にそんな話が出ていました。そういった中で、教育委員会としてそういうふうなところはどういうふうに進めていくかという、そういった考えがあるのか。あるいは全く考えはなくて、今のこういった提案理由に基づいて、毎年人数を減らしていきますというような形を続けていくのかといった、その考え方になっているんですけど、その辺はいかがなんでしょうか。

百瀬 課長 今年の3月に策定いたしました長期構想におきましては、再編の話も触れてはいるんですけども、具体的な話は書いてございません。ただ、生徒数が年々減っていくという状況はもちろん把握してございますので、その中で定員になりますけども。その定員につきましても先日ちょっと話をさせていただいた私学との関係もございまして、私学との関係が令和7年度入試までに8対2にするということもございまして、その中で卒業生見込みの数に私学との合意された部分のある数値を掛けあわせると、公立の全体の定数が出てくるわけですけども、その定数は確かに年々当然生徒の減少に従って減っていくというようなことになりますけども、今の段階ではいつの段階で学校再編とかということを考えるという今段階にはありませんで、いずれは長期計画10年の計画ですので、その中で考えなければいけないとは思っていますけども。今の時点では、その年、年、それぞれ令和7年度までに決まっている定員の総枠の中で、それぞれ定員を考えていくというようなことでやっていきたいとは思っています。

松坂 委員 私がちょっと思うところは、必ず減ってくるので今後また毎年こういうふうには減りました。こういうふうな人数に調整しますよというのか、そういうふうには定員数を減らした内容を提案するということが今後必ずなると思うんです。その時に各高校のほうでも、うちの高校が少なくなってきた。じゃあ今後どういうふうにしていくかというふうな話も先日から出ているので、例えば今後の生徒さんたちがどういった教育を望んでいるのかというふうなことの調査をしながら、それを充足できるのかどうかというふうなことがまずちょっと把握する必要があるんじゃないかなという気はするんです。例えば普通科を希望している人たちが今後少なくなっていくのか。工業的なものの生徒さんの希望が増えていくのか。また今後いろんな教育のIOTだとか、そういったものを推し進めていく中で、多分生徒さんの希望が少しずつ変化していくと思うんです。それに基づいた学校教育の機会が与えることが十分できるのかどうかというところを考えながら、生徒の希望だとか、もっと先のところになると思うんですけど、そういうふうなことを考えながら、ある程度の少なくなっていくところの器をどうするかということを考えながら、統廃合に确实進むことを想定するとしたら、ちょっとその辺をそろそろ調査だとか、方向性を何か打ち出すようにしたほうがいいかなというふうに考えたんですけど。またその辺を具体的に動けるようにというのか、何か結構進める必要がないでしょうかというのをちょっと思いますので、何かその辺をもうちょっと先回りして考えられるようなお話が出していただきたいな、なんというふうに思いますけども。またよろしくお願ひしたいと思ひます。

- 百瀬課長 求められる教育、これから、確かにどんな教育が求められるかというのは大事だと思っております。今年と言うか、今までの定員の考え方でありまして、なるべく産業人材育成という観点から職業系の学科は減らさない、なるべく減らさないようにというような考え方を基に、どちらかと言うとやっぱり普通科の定員を主に削減してきたという経緯がございます。そういった過去の経緯と、これから全く求められる教育がどんなものかというのとも踏まえながら定員の策定には努めて参りたいと思っております。
- 松坂委員 そうですね。よろしく申し上げます。
- 岡部委員 教えていただきたいんですが。全国募集、隣接募集ということで、今年の本当目玉商品だと思うんですが。講師の関係で私立は全国募集どんどんするけど、定員にインになっていると思います。ますますこれからスポーツ系、その他等が入ってくる場所も恐らく全国募集であるとは思いますが、でも今言った生徒数が減っていくということだけでも県外から入ってくるものを考えた時に、この全国募集の公立関係については募集を本当にどんどんどんどん積極的になさっているのか。チラシを配布するだけで終わっているのかというようなことと。その傾向を、募集活動をどのようにこれからしていくのかということをお教えいただければ、やっぱり公立にもこんないい工業高校あるんだよということをおっしゃっていただいたり、甲府工業のこの専科もあるので、そういうことで宣伝という言い方はおかしいですが、広報はどういうふうにするのかということをお教えいただければありがたいです。
- 百瀬課長 全国募集につきましては、今年の7月に募集要項を策定いたしまして、それを基に各都道府県の教育委員会にチラシ等をお配りして、なおかつまたご連絡等も差し上げる中で、各都道府県内の中学校へなるべくお声掛けをしていただくような取り組みをしたところでございます。実際に各都道府県でも全国募集をやっているところが多ございまして、それぞれ生徒の取り合いと言うんですかね、そんなこともございまして、かなり協力してくれる都道府県もございまして、じゃあうちの都道府県にこれだけの中学校の生徒がいるから、これだけチラシをくださいというような積極的にご協力をしてくれる都道府県もございました。そういったチラシの配布とか、直接行って説明というわけにはなかなかいかないんですが、そういった間接的と言うんですかね、そういった取り組みはしているところではございます。
- 岡部委員 ありがとうございます。7月にも教えていただいたのでチラシを見せていただいたり、教育委員会に説明していただいたのでよく分かりますが、やはり何とかやっぱり山梨を広めたいということをお考えれば、私立のようにどんどんどんどん進んでいるような、だからと言って公立をというわけにはいかないんですが、また広報活動をしていただければと思います。ありがとうございます。
- 小澤委員 内閣府と地域・教育魅力化プラットフォームというところが共同で、今年度から立ち上げたという地域みらい留学365という試みについて最近知りました。これは高校2年生の1年間を地方の高校に国内留学するという試みで、非常に興味深いなと思いました。全国で手挙げしている高校が12校ありまして、北海道、山形、神奈川、山口、沖縄とか、三重とか、割と地方の所で、そして特色ある教育を提案して、都会の生徒さんが1年ぐらいなら行ってみたいと思うような、そういったプログラムで、魅力ある情報発信をして生徒さんの募集につなげているというふうな試みのようです。山梨は比較的首都圏から近いですがけれども、親御さんの中ではすごく遠くへ離すことについて不安な方もいると思いますから、ぜひこういう山梨の特色ある環境にも恵まれていますし、ワインとか、素敵な工業科があったりとか、そういった特色あるもので全国に打ち出すというのに参加してみるのも、一つ考えておいていただけたらいいかなと思いました。

- 小澤委員      あと、もしそういうことで、例えば山梨の生徒さんが1年間、高校2年生の1年間どこかへ行きたいと言った時に、教育委員会としてどう対応するかというシミュレーションも必要になってくるのかなというふうに思います。これからやっぱり多様性の時代ですから、色々な環境で人が交わることは何かを生み出す力になるのかなと思いますので、高校もそういった改革に向けて先取りして行かれたらいいのかなというふうに思いました。私、個人的にはそのことにすごく興味を持っています。  
以上です。
- 百瀬課長      今の事業につきましては承知しておるんですが、実際ところ本県に高等学校で全国から人を受け入れられる寮と言うんですかね、設備がまず整っていないというところもございまして、今その留学をやっている所はかなりそういった設備も整っていて、環境が非常に整備されているというような状況の中でございますので、そことの比較になるとちょっと今のところ本県ではまだその域に達していないかなという気はするんですけども。
- 小澤委員      多分向こうはすごく切羽詰まっているんだと思います。人口減少とか、過疎化もすごく加速度的に進んでいて、若い人がいなくなっていくますから、それに対する行政の危機感が多分本県よりもすごく危機意識が高いからこそ、整備してでも人を呼び込もうという取り組みに力を入れていらっしゃるんだろうなと思います。ありがとうございました。
- 教 育 長      様々な取り組みが考えられますので、今後も研究を怠りなくということをお願いしたいと思います。
- 松坂委員      外へ出るのは可能なんですか。山梨からそういった所を1年間だけ行くのは、カリキュラム的にもそういう体制は山梨県どうですか。
- 百瀬課長      それは文科省のほうで認めているので、特に問題ないです。
- 小澤委員      何か内閣府、文科省、総務省も関わってのすごい一大プロジェクトのようですね。中には都会から地方に行くのではなく、地方から別の地方に行く高校生の方もいるようですね。  
はい、ありがとうございました。
- 佐藤委員      話題が少し変わります。高校改革構想の中に、外国籍の生徒さんの受け入れについて努力していただいているところなんですけれども、先月でしたよね、帰国生徒等の特別措置受験者数という表を見せていただいて、外国籍の生徒さんがすごく増えているんだろうけれども、意外に受験者数が増えてなかったところが気になりまして、母数に対してどれぐらいの受験者数だったのかなというパーセンテージをまたちょっと知りたいということと。通級指導を受けている生徒さんの高校への受け入れについても、きっと努力していただいているところだと思うんですけど。そういう生徒さんたちが公立の高校にどれぐらい受験チャレンジしているかというところをちょっと調べていただきたいなというふうに思います。中学校の教員が日本語が苦手な外国籍生徒の進学について非常に苦労して、心痛めているところがあるんですけども。そういうことにも関わって、あれですよ、この定員の中にはそういう外国籍の子で手を挙げてきた生徒さんは、枠として特に何かあるというんじゃないくて、この中でチャレンジしているということですよ。受験の中で配慮、5教科の中から3教科とか、笛吹高校は3教科から2教科というふうな・・・
- 百瀬課長      それからあと面接を・・・

佐藤委員 面接も。もしくは英語でというような配慮ですよね。十分そういう生徒さんの進学先として満たされているところがどのぐらいなのかなというところをちょっと知りたいと思いました。

百瀬課長 手元にその数字が今ございませんので、また調べましてお届けしたいと思います。

### 【原案どおり決定】

## 2 報告事項

### (8) 山梨県社会教育委員の会議の提言について

〔説明〕 生涯学習課

岡部委員 教えていただきたいんですけど。県内10団体の活動を概観しというところで、これは市町村の人たちがこの研修会の開催の時に反映をしていくということですか、その10団体の活動も、例えばいろんなところで使って、是非こういうのもありますよ、ああいうのもありますよというようなことで、これを見たら若尾バレエのものであったりとか、何でしたか、学校みたいなどころもあったりとか、そういうのを説明なさっていますけども、そういうのをちゃんと事例を発表しているのを市町村に反映なさっているんでしょうか。

山岸課長 ここで事例として取り上げさせていただいて、もちろんこれ以外のたくさんの社会活動団体がございますので、一つには事例として見ていただくということも重要なんですけども、またその中で取り組みをするに当たっての課題というの、この提言の中にも書かれているんですが、それをまた、じゃあその課題解決のためにどうするのかというのを県自体も考えますし、市町村地域それぞれの社会教育の現場でも、そこをじゃあどのように解決していくのかという一つの事例として見ていただくというような形で提言書に書いております。

岡部委員 身近な市町村でもやっぱり社会教育委員さんを育てることが、県のほうがこういうふうな傘下、傘下にあるわけじゃないんですけども、一緒になっているような課題が取り組んで行こうというようなところをしっかりと提言を見たらあるので、それはやはり市町村に反映することが大切かなと思いました。ありがとうございました。

山岸課長 参考にさせていただきます。ありがとうございます。

佐藤委員 こうして研修会を開催したり、皆さんも構想を練って、こんなふうやって実現の方向で動いていっちゃると思うんですけど、この先をぜひ実現する方向でリードしていただきたいなと強く思います。よろしくお願いします。

山岸課長 まさにおっしゃっていただいているとおりでと思います。社会教育委員のほうからもそのような言葉がありましたので、是非今後生かして参りたいと考えております。

小澤委員 今ざっと見させていただきましても、広報活動の重要性ということについて述べられていて、せっかく素晴らしいことをやっているんだけど、それが多くの人になかなか届いていない。このことについてホームページやSNSなど、様々なネットワークサービスを活用して情報発信するとか、そういった課題と具体的な方策についていろいろありますけれども、それについてはどんな展開が進んでいっちゃいますか。

山岸課長 　　例えばホームページであるとか、SNSも、まあSNSまでは行ってないかもしれないですけども、そういった電子的な媒体も通じてということもやっているんですが、その本当に届けたい所に届けるということができていないというふうに思っています。逆に、例えば市町村の広報誌であるとか、回覧板に混ぜたりとか、そういうことのほうが意外と活動が目につくというケースもあるというようなご意見もいただいていますので、今だから電子というわけではなくて、全ての媒体を使ってちゃんと適確に対象者に届くような形で広報活動を行っていきたいと考えています。

小澤委員 　　この間の一日教育委員会も広報がすごく難しかったと聞いています。一応公がやるものですから民間の新聞に載せてくださいと言っても、公のやるものは民でそんなに大々的にやるのはちょっと難しいということで、新聞のイベント欄みたいなところに載せてもらうことはできないんだという説明を事務局から聞きました。これらの活動については民の活動も多いわけで、そういったものも活動して、また公の部分もありますし、その回覧板なども活用してやっていくという理解でよろしいでしょうか。

山岸課長 　　はい、結構でございます。ありがとうございます。

【 了 知 】

3 その他報告

- (11) 指定管理者候補者の選定について（県立図書館）（県立ゆずりはら青少年自然の里）  
〔説明〕 生涯学習課

【 了 知 】

〔 教育長閉会宣言 〕

以 上